

鹿児島県における令和5年産でん粉原料用さつまいもの生産状況などについて

鹿児島県さつまいも・でん粉対策協議会

【要約】

鹿児島県における令和5年産さつまいもは、作付面積は減少したものの、サツマイモ基腐病^{もとぐされびょう}の抵抗性品種への切り替え、防除対策の実践などの取り組みが進んだことや天候に恵まれたことから、生産量は21万5400トン（前年産比103%）で、このうちでん粉原料用さつまいもの生産量は3万9500トンであった（同74%）。

はじめに

鹿児島県におけるさつまいもは、本県普通畑の約16%に作付けされており、夏場の土地利用型作物として、輪作体系や防災営農の面から重要な作物として位置付けられている。また、でん粉や焼酎などの原料用をはじめ、青果や菓子（加工）用として幅広く利用されており、地域経済を支える面からも重要な作物である。

本稿では、令和5年産原料用さつまいもの生産状況やでん粉工場の原料確保、当協議会における生産振興に向けた取り組みについて報告する。

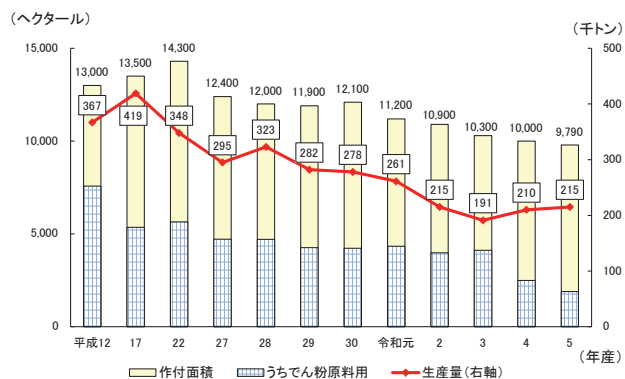
1 令和5年産さつまいもの生産状況

(1) 作付面積

令和5年産の作付面積は、農業者の高齢化に伴う労働力不足やサツマイモ基腐病^{もとぐされびょう}（以下「基腐病」という）発生の影響などにより、昨年より210ヘクタール減少し、9790ヘクタール（前年産比98%）（図1）となったものの、全国の作付面積3万2000ヘクタールのうち約3割を占め、全国第1位となってい

る。このうちでん粉原料用は、県全体の約19%を占める1820ヘクタール（同73%）で栽培されている。

図1 鹿児島県におけるさつまいもの作付面積、生産量の推移

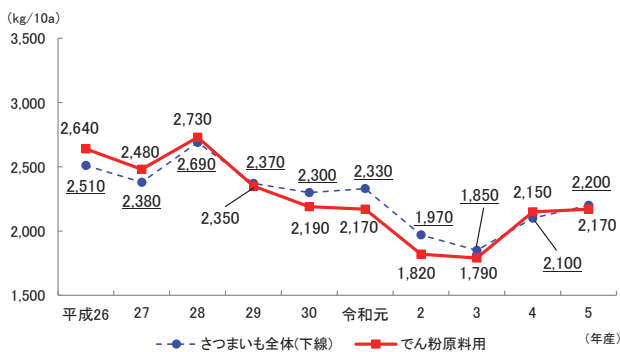


資料：農林水産統計

(2) 生産量

令和5年産のさつまいもは、作付面積が減少したものの、基腐病の抵抗性品種への切り替えや防除対策の実践など、基腐病菌をほ場に「持ちこまない」「増やさない」「残さない」3つの対策の総合的な取り組みが進んだことから被害が減少し、また、おおむね天候に恵まれ、いもの肥大が順調に進んだことから、生産量は21万5400トン（前年産比103%）となり、10アール当たりの収量は、2200キログラム（同105%）となった（図2）。

図2 鹿児島県におけるさつまいもの10アール当たり収量の推移



資料：農林水産統計

(3) 用途別生産量

鹿児島県におけるさつまいもの用途は、でん粉原料用と焼酎原料用が全体の66%を占めており、令和5年産におけるでん粉原料用の生産量は、全体の18%となる3万9500トン、焼酎原料用は全体の48%の10万3773トンとなっている(表)。

表 鹿児島県におけるさつまいもの用途別作付面積および生産量

(単位：ha、トン)

区分 年産	でん粉原料用		焼酎原料用		その他		合計	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
R4	2,490	53,500	4,617	98,814	2,893	57,686	10,000	210,000
R5 (構成比)	1,820 (19%)	39,500 (18%)	4,782 (49%)	103,773 (48%)	3,188 (33%)	72,127 (33%)	9,790 (100%)	215,400 (100%)
R5/R4	73%	74%	104%	105%	110%	125%	98%	103%

資料：農林水産統計、鹿児島県調べ

注：四捨五入の関係により、構成比の合計が100%にならないものもある。

2 でん粉工場の原料確保

鹿児島県内のさつまいもでん粉工場は、主産地である南薩、大隅、種子島地域を中心に、農協系2工場、民間11工場の計13工場が操業している。令和5年産のさつまいもの生産量は、前年産から3%増加したものの、でん粉原料用さつまいもは、前年の74%と減少し、計画数量の確保には至っていない状況である。

これは、基腐病発生の影響に加え、他の用途におけるさつまいもの販売価格高騰により、でん粉原料用からその他の用途向けに移行したことなども要因と考えられ、でん粉工場は安定的な原料確保が課題となっている。

3 生産振興に向けた取り組み

(1) 用途別原料確保対策

本協議会では、でん粉工場や焼酎メーカーに対し次年産のさつまいもの需要量調査を行い、令和6年2月に「地域別の原料用さつまいもの需要希望量」として取りまとめ、地域段階において情報共有し、需要に見合った計画的な生産を推進している。

また、令和6年8月には、本県さつまいもの安定的な原料確保を図るため、関係者による情報交換会を開催し、契約取引の推進や基腐病対策を生産者に周知することを申し合わせたところである。

この他、でん粉原料用として出荷を予定している生産者に対しては、独立行政法人農畜産業振興機構鹿児島事務所の協力のもと、国の支援制度(品目別経営安定対策)(図3)などを周知しており、令和7年産に向けても同様の取り組みを行うこととしている。

図3 品目別経営安定対策のチラシ

令和6年産でん粉原料用さつまいもの 生産・出荷を予定される皆様へ

国は、でん粉原料用さつまいも生産者を支援するため、でん粉原料用いも交付金による支援を行っています。支援を受けるためには、**一定の要件を満たす生産者であり、でん粉工場（注）と事前の売渡契約を結んだ上で、毎年7月末までに（注）農畜産業振興機構（alic）に申請する**手続きが必要です。（注）JAのでん粉工場に出荷する場合は、JAと売渡契約を結びます。

① 生産者に求められる要件

区分	交付金の対象者要件
B-1	認定農業者、特定農業団体 又はこれと同様な組織（面積要件なし）
B-2	収穫面積（注1）の合計が、0.5ha以上の生産者（法人含む）、3.5ha以上の協業組織
B-3	基幹作業（注2）面積の合計が、3.5ha以上の共同利用組織（注3）の構成員
B-4	B-1、B-2の生産者、又は基幹作業面積の合計が3.5ha以上の委託組織やサービス事業体に基幹作業を委託している者

（注1）収穫面積は、作付面積（0.05ha部分に限る）と収穫作業の委託面積の合計から、収穫作業の委託面積を引いた面積
（注2）基幹作業は、育苗、耕・整地、植立・マルチ、種付け、防除、収穫（掘り起こし・つる切り）
（注3）B-3の共同利用組織は、基幹作業にかかる管理費（オプレーション）を定める組織
（注4）B-3、B-4の基幹作業を共同で行う場合や委託する場合は、機械の共同利用や委託に供した実面積（最大の基幹作業の面積）の割合が、収穫面積の2分の1以上

② 売渡契約の締結

契約に基づき、計画的に出荷を行いましょ！

でん粉工場と売渡契約を結んでいないと、交付金の対象になりません。

※詳しくは、申請の代理人であるでん粉工場やJAにお問い合わせください。

③ 申し込みや出荷の際の注意点

（申し込み時の注意点）

- ・ 売渡契約書及び要件審査申請書には、**でん粉原料用さつまいもとして出荷を予定されているすべての品種名を正確にご記入ください。**
- ※ 品種によっては、交付金単価が異なる場合があります。

（出荷の際の注意点）

- ・ 申し込みをした品種名であることを確認の上、出荷してください。
- ・ 申し込み時に**予定していなかった品種を出荷される際には、出荷の前にでん粉工場やJAにご相談ください。**

鹿児島県さつまいも・でん粉対策協議会（事務局：県庁農産園芸課） 令和6年3月作成
資料：鹿児島県さつまいも・でん粉対策協議会

④ 生産者の承継

申請手続き後に、生産者の方が亡くなったり、経営から引退する場合、他の方に経営の全部又は一部を承継する際には手続きが必要です。このような場合には、**速やかに、でん粉工場やJAにご連絡ください。**

なお、毎年9～10月頃に生産者の皆様からalicから、通知はがき「対象でん粉原料用いも生産者要件審査結果通知書（右イメージ参照）」が送付されてきますので、内容に問題がないか、必ずご確認をお願いします。

通知はがきイメージ

【参考】令和6年産でん粉原料用さつまいもの生産者手取り参考価格

＜参考価格＞

50,668円/原料トン

（1,900円/俵*）

※1俵=37.5kgの場合

↑ 生産者手取り額 ↓

32,340円/原料トン

（1,213円/俵*）

（課税事業者の場合：31,550円/原料トン）

国からの交付金（鹿児島県産者の場合）

18,328円/原料トン

（687円/俵*）

（課税事業者の場合：31,550円/原料トン）

（注）交付金、取引価格は、さつまいもの品種によって異なる場合があります。

さつまいもの生産量を確保して消費者ニーズに応えましょう！

在ほ期間確保等による収量確保

在ほ期間の確保により単収向上が期待されます。サツマイモ基腐病対策として、**抵抗性品種**（こないしん、みちしずく等）の活用や、**排水対策**、**予防防除**など適切な肥培管理に努めましょう。

県産センター大開支援（19元～39年の平均） 4月植え夏マルチ栽培

でん粉は様々な用途に使用されています

さつまいもでん粉は、そのまま利用されるだけでなく、**糖化糖液**（清涼飲料等）や**菓子糖**（びびせん等）、**糖類**（養育等）、**医薬品**（オプラート）など様々な用途に用いられています。

近年、でん粉用さつまいもの生産は減少傾向にあり、実需を一気に応えられていない状況です。このため、でん粉原料用さつまいもの生産量の確保に御協力をお願いします。

(2) 基腐病対策

基腐病は、沖縄県に次いで、平成30年12月に本県で確認されて以降、令和6年9月末現在、35都道府県で発生しており、全国的に広がりを見せている。

鹿児島県では、基腐病対策を着実に推進していくため、令和4年1月に策定した「鹿児島県サツマイモ基腐病対策アクションプログラム」（以下「アクションプログラム」という）に基づき、ほ場に基腐病菌を「持ち込まない」「増やさない」「残さない」

3つの対策を、関係機関・団体と一体となって総合的に推進しているところである（図4、5）。

本協議会でも、鹿児島県や関係機関・団体と連携して、生産者などを対象に、抵抗性品種「みちしずく」の育苗技術や最新の試験研究成果、取り組み事例の情報共有を図り、基腐病対策の総合的な取り組みを推進するための研修会を令和6年8月に開催するなど、令和6年産対策はもとより令和7年産に向けた健全苗と健全なほ場の確保に向けた取り組みを推進しているところである。

図4 「持ち込まない」「増やさない」「残さない」3つの対策

《農薬散布のみの実施など、単一的な対策ではなく『3つの対策』を総合的に実施する》

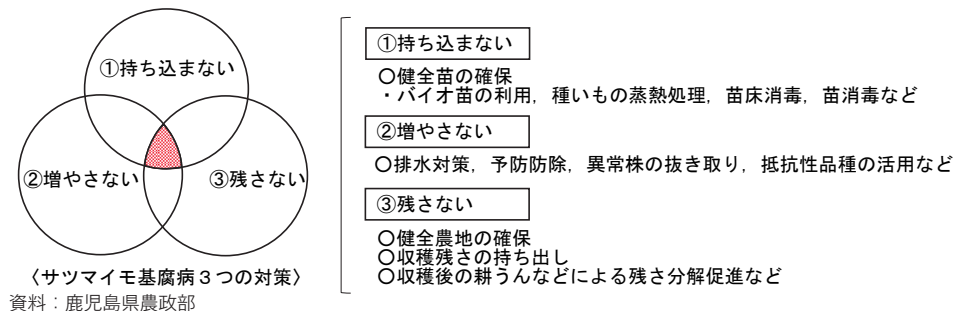


図5 基腐病対策の防除暦

令和6年産サツマイモ基腐病対策の防除暦

令和5年10月作成

持ち込まない (健全苗の確保), **増やさない** (発病株の除去, 適期防除), **残さない** (残さの分解促進) を徹底しましょう

育 苗		本 ぼ																								
健全苗生産が基腐病対策の基本!		排水対策, 異常株除去と予防防除!																								
1月	<p>挿し苗増殖</p> <p>パイオ苗は必要本数を早めに準備する。 (※パイオ苗の注文に関しては、農協や取り扱い会社にお問い合わせください。)</p> <p>健全ほ場の確保 種いも生産ほ場は、水田やさつまいもを数年栽培していないほ場で行う。</p> <p>種いも選別 伏せ込む前に、病害や傷の見られる種いもは必ず取り除く。</p>	1月	<p>前作で被害の大きいほ場での対応</p> <ul style="list-style-type: none"> • 輪作または交換耕作 前年に水稲を栽培した水田や、2年以上さつまいもを栽培していないほ場で栽培する。 • 他作物への転換 基腐病菌の密度を低減するため、サツマイモを連作せず、他作物へ転換する。 <p>畑の土づくり</p> <p>完熟堆肥を施用することで通気性、透水性、保水性などが良くなるため、1t/10aを目安に施用する。また、化学肥料も地域の栽培基準を参考に施用する。</p>																							
2月	<p>採苗</p> <p>育苗時の地面から5cm以上離れた位置で採苗し、苗消毒を行う。 • 採苗で使用するハサミは、定期的に刃先を消毒して使用する。 • 消毒液は使用日ごとに毎回調製する。</p>	2月	<p>ほ場排水性の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> • ほ場は懸線明きよの設置や、枝敷の除去、枝敷を切るなどを行い、ほ場外への排水を促す。 • ほ場外の排水路のつまりがないか確認する。 <p>異常株の除去</p> <p>定期巡回により葉の萎黄やしおれ症状を示す株を早期に見つけ、株ごと抜き取って、ほ場外に持ち出す。</p>																							
3月	<p>育苗苗の消毒※1</p> <p>採苗 → 苗消毒 → 苗の取置き</p> <p>※苗全体を薬液に3.0分間浸漬</p>	3月	<p>品種の選定</p> <p>基腐病抵抗性は品種差があるので、用途やほ場の状況に応じて抵抗性も考慮しながら品種選定を行う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>抵抗性の程度</th> <th>該当する主要な品種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>やや強</td> <td>こないしん、みちしずく、べにまさり</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>シロコタカ※</td> </tr> <tr> <td>やや弱</td> <td>コガネセンガン、高系14号</td> </tr> <tr> <td>弱</td> <td>べにはるか</td> </tr> </tbody> </table>	抵抗性の程度	該当する主要な品種	やや強	こないしん、みちしずく、べにまさり	中	シロコタカ※	やや弱	コガネセンガン、高系14号	弱	べにはるか													
抵抗性の程度	該当する主要な品種																									
やや強	こないしん、みちしずく、べにまさり																									
中	シロコタカ※																									
やや弱	コガネセンガン、高系14号																									
弱	べにはるか																									
4月	<p>育苗苗の土壌消毒※2</p> <p>消毒効果を高めるため、地温、土壌水分を確保し、土壌湿潤後はビニールで全面被覆する。</p>	4月	<p>ほ場での薬剤防除※4 散布例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">種付前</th> <th colspan="3">種付後</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> <th>3回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>フロントフロアブル25の全農標準土壌散布</td> <td>種付から21日後 フロントサイドFC (300g/10a)</td> <td>1回目から14日後 フロントサイドFC (300g/10a)</td> <td>2回目から30日後 トリフミン水和剤 トリフミン水和剤 (300g/10a)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロントサイドFCの全農標準土壌散布</td> <td>種付から21日後 フロントサイドFC (300g/10a)</td> <td>1回目から14日後 フロントサイドFC (300g/10a)</td> <td>2回目から30日後 フェニチン-202779 (300g/10a)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3</td> <td>—</td> <td>種付から35日後 フェニチン-202779 (100g/10a)</td> <td>1回目から14日後 フロントサイドFC (200g/10a)</td> <td>2回目から14日後 フェニチン-202779 (300g/10a)</td> </tr> </tbody> </table>	区分	種付前	種付後			1回目	2回目	3回目	1	フロントフロアブル25の全農標準土壌散布	種付から21日後 フロントサイドFC (300g/10a)	1回目から14日後 フロントサイドFC (300g/10a)	2回目から30日後 トリフミン水和剤 トリフミン水和剤 (300g/10a)	2	フロントサイドFCの全農標準土壌散布	種付から21日後 フロントサイドFC (300g/10a)	1回目から14日後 フロントサイドFC (300g/10a)	2回目から30日後 フェニチン-202779 (300g/10a)	3	—	種付から35日後 フェニチン-202779 (100g/10a)	1回目から14日後 フロントサイドFC (200g/10a)	2回目から14日後 フェニチン-202779 (300g/10a)
区分	種付前	種付後																								
		1回目	2回目	3回目																						
1	フロントフロアブル25の全農標準土壌散布	種付から21日後 フロントサイドFC (300g/10a)	1回目から14日後 フロントサイドFC (300g/10a)	2回目から30日後 トリフミン水和剤 トリフミン水和剤 (300g/10a)																						
	2	フロントサイドFCの全農標準土壌散布	種付から21日後 フロントサイドFC (300g/10a)	1回目から14日後 フロントサイドFC (300g/10a)	2回目から30日後 フェニチン-202779 (300g/10a)																					
3	—	種付から35日後 フェニチン-202779 (100g/10a)	1回目から14日後 フロントサイドFC (200g/10a)	2回目から14日後 フェニチン-202779 (300g/10a)																						
	5月	<p>育苗苗の後片付け</p> <p>育苗が終了したら、速やかに残さを持ち出し、複数回耕うんして残さの分解を促進する。</p>	5月	<p>収穫・残さ処理</p> <p>収穫後のくずいもやしも、ほ場に放置したままにすると乾燥し固くなるため、残さの粉砕やすき込みは、水分を十分に含んでいる収穫直後に速やかに行う。</p> <p>くずいもは翌年の発生源!</p> <p>速やかな耕うん</p>																						
6月	<p>種いも消毒※3</p> <p>種いもを水蒸気が発生する専用の装置(写真)に入れ、48℃100分で基腐病を消毒する技術で、貯蔵前に蒸熱消毒を行うことで基腐病の発生リスクが軽減される。</p>	6月	<p>本ぼの土壌消毒※2</p> <p>消毒効果を高めるため、土壌水分を確保し、土壌湿潤後はビニールで被覆する。</p>																							
7月	<p>後片付け土壌消毒</p> <p>種いもを水蒸気が発生する専用の装置(写真)に入れ、48℃100分で基腐病を消毒する技術で、貯蔵前に蒸熱消毒を行うことで基腐病の発生リスクが軽減される。</p>	7月	<p>栽培管理</p>																							
8月	<p>種いも消毒※3</p> <p>種いもを水蒸気が発生する専用の装置(写真)に入れ、48℃100分で基腐病を消毒する技術で、貯蔵前に蒸熱消毒を行うことで基腐病の発生リスクが軽減される。</p>	8月	<p>収穫</p>																							
9月	<p>種いも消毒※3</p> <p>種いもを水蒸気が発生する専用の装置(写真)に入れ、48℃100分で基腐病を消毒する技術で、貯蔵前に蒸熱消毒を行うことで基腐病の発生リスクが軽減される。</p>	9月	<p>残さ処理</p>																							
10月	<p>種いも消毒※3</p> <p>種いもを水蒸気が発生する専用の装置(写真)に入れ、48℃100分で基腐病を消毒する技術で、貯蔵前に蒸熱消毒を行うことで基腐病の発生リスクが軽減される。</p>	10月	<p>残さ処理</p>																							
11月	<p>種いも消毒※3</p> <p>種いもを水蒸気が発生する専用の装置(写真)に入れ、48℃100分で基腐病を消毒する技術で、貯蔵前に蒸熱消毒を行うことで基腐病の発生リスクが軽減される。</p>	11月	<p>残さ処理</p>																							
12月	<p>種いも消毒※3</p> <p>種いもを水蒸気が発生する専用の装置(写真)に入れ、48℃100分で基腐病を消毒する技術で、貯蔵前に蒸熱消毒を行うことで基腐病の発生リスクが軽減される。</p>	12月	<p>残さ処理</p>																							

(1) 苗消毒 ※1

農薬の名称	対象病害虫	希釈倍率	使用時期
ベンレート水和剤	基腐病、つる割れ病、黒斑病	500~1000倍	種付前
ベンレートT20水和剤	基腐病、黒斑病	200倍	種付前

(2) 土壌消毒 ※2

農薬の名称	有効成分	病害	線虫	害虫	雑草
バスアミド微粒剤	ダゾメット	○	○	○	○
クオールピクリン等	クオールピクリン	○	○	○	○

(3) 種いも消毒 ※3

農薬の名称	対象病害虫	希釈倍率	使用時期	使用回数
トリアジンM水和剤	基腐病、黒斑病	200~500倍	貯蔵前	1

(4) ほ場での薬剤防除 ※4

農薬の名称	対象病害虫	希釈倍率	10aあたり使用量	使用時期	使用回数
フロントフロアブル25	基腐病	250倍	100g	種付前(土壌散布)	1
		125倍	50g		
		10倍	4g		
		4倍	4g		
フロントサイドFC	基腐病	40kg/10a	500g/10a	種付前(土壌散布)	1
トリフミン水和剤	基腐病	500倍/10a	50~200g	収穫30日前まで	2
フェニチン-202779	基腐病	1000倍	100~300g	収穫14日前まで	2
アミスター-20フロアブル	基腐病	2000倍	100~300g	収穫前日まで	2
ジニアアイン水和剤(調剤)	基腐病	1000倍	200~300g	収穫14日前まで	3
Zボルドー(調剤)	基腐病、斑点病	500倍	100~300g	収穫前日まで	-
I Cボルドー-66D(調剤)	基腐病	50倍	100~300g	-	-

資料：鹿児島県農政部

おわりに

鹿児島県のさつまいもの生産振興において、基腐病のまん延防止は喫緊の課題であり、基腐病に打ち克つためには、ほ場に基腐病菌を「持ち込まない」「増やさない」「残さない」3つの対策を総合的に推進する必要がある。

アクションプログラム策定後の令和4年産以降、

生産者による3つの対策の実践が進んだことにより、基腐病の発生は減少傾向にある。令和6年産の対策としては、ラジオCMによる基腐病対策の周知や、多収で基腐病抵抗性の強い品種「みちしずく」の普及などに取り組んでいるところである。今後とも関係機関・団体と一体となって、さらに基腐病対策を推進し、生産者の安定的なさつまいも生産につながるよう取り組んでまいりたい。